

子どもにお手伝いをさせよう

『お手伝い』と聞くと「まだ早いかな」と思われる方が多いかもしれませんが、しかし、0～2歳はお手伝いをするために必要な“思いやり”の気持ちが発達する、とても大切な時期なのです。

子どもは自分の最も信頼している身近な人から「感謝されることの心地よさ」をたっぷり感じとり、それが、その後の成長を後押ししてくれるはずです。



～どんなお手伝いができるかな？～



1歳過ぎくらい ママのやることをじっと観察して、少しずつまねようになります。まねした時には、言葉をそえてあげましょう。
お掃除のまね...「きれいきれいしたね～」などわかりやすい言葉で

1歳後半くらい 少しずつお手伝い遊びができるようになりますが、ママと一緒になければできません。短く・わかりやすい声かけをして遊び感覚でやってみましょう。
花に水をあげる 「お水じゃーしてね。」
おもちゃ等のおかたづけなど 「ナイナイしてね。」
ゴミ捨て 「ポイしてきてね。」



2～3歳代くらい 視野が広がりいろいろなお手伝いをしますが、今までどおりママはきちんとフォローを忘れずに。
そして、「ありがとう」の言葉を！
下の子のお世話をする 食器を運ぶ、かたづける
洗濯物をたたむ(タオルなど簡単なもの)
お料理のお手伝い(豆や玉ねぎの皮むき、混ぜ混ぜなど)



初めのうちは、親にとってありがたいことばかりではありません。失敗しても怒らず、やってくれる気持ちを尊重しましょう。

そして必ず「ありがとう、助かったよ。」など感謝の気持ちを言葉にして伝えましょう。ママに言われた感謝の言葉は子どもの心に響き、自尊心を育み、やがてその人に対して応えたいという気持ちに変わってきます。

子どものやりたい気持ちを大切に、親子で楽しみながら、遊び感覚で生活の中にお手伝いを取り入れていきましょう。